

## 著者プロフィール

---

### 堀 一成 (HORI Kazunari)

大阪大学全学教育推進機構准教授。1989年京都工芸繊維大学工芸学部電子工学科卒業。1994年京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科博士後期課程材料科学専攻修了。博士（学術）。詫間電波工業高専（現香川高専）助手、大阪外国語大学准教授などを経て現在に至る。専門は数理物理学・自然言語処理・科学技術教育。著書に、『大学と社会をつなぐライティング教育』（くろしお出版：共著）『あらためて、ライティングの高大接続』（ひつじ書房：共著）など。レポート作成経験ゼロで大学に入学し、毎週の電気工学実験・電子工学実験に大変苦労した。本書はタイムマシンで過去の自分に送る想定で執筆した。

### 北沢 美帆 (KITAZAWA Miho)

大阪大学全学教育推進機構助教。大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻博士後期課程修了、2015年より現職。博士（理学）。専門は理論生物学・植物形態学。夏休みの宿題は締め切り直前に焦るタイプで、本書には学生時代の反省を詰め込んだ。数年前の大掃除の際に、プランクトン5-6種をA4用紙1枚に詰め込んでいた大学1年生の頃のスケッチと、ゴカイの頭部のみに用紙1枚を費やした2年生のレポートが発掘され、「スケッチは大きく描くようになるとうまくなる」ことを実感。本書にも実物を載せようと思ったが見つからず、大掃除とは何だったのかと頭を悩ませている。

### 山下 英里華 (YAMASHITA Erika)

大阪大学大学院医学系研究科特任研究員。大阪大学大学院生命機能研究科生命機能専攻博士課程修了、2020年より現職。博士（理学）。専門は生体イメージング技術を用いた細胞生物学・腫瘍免疫学。著書に『ドーナツを穴だけ残して食べる方法』（大阪大学出版会：共著）。学生当時、気合いを入れて実験レポートは作成しており、良いものを提出したと思っていたが、今現在、見直してみるとツッコミどころ満載で、ダメ例はそんな実験レポートを参考に作成した。恥ずかしながら、学部1年生当時の実験ノートやスケッチが例として本書に掲載されている。堀先生のもとでアカデミックライティングとその指導法を学び、学部の先輩である北沢さんとは何かと縁がありお世話になっている。